

急性期医療での 言語聴覚療法の実際

講師 櫻井隆晃 先生（名古屋医療センター）

ICUを含む急性期医療において、言語聴覚士が適切な介入を行うためには、全身状態を的確に評価し、病態に応じたリスク管理を行いながら専門的な支援を実践することが求められます。

本セミナーでは、急性期医療で必要となる基礎知識、コミュニケーション支援、摂食嚥下支援、多職種との連携など、急性期言語聴覚療法での活動内容や対象者様への支援に不可欠なことについて一緒に学びます。ICUでの実践や実際の事例をご紹介します。講師の臨床経験を交えお伝えします。

第1回

急性期医療で言語聴覚士が活動するための基礎知識

8/7
(金)

安全かつ効果的な早期介入を組み立てるためには、バイタルサインや画像、血液データから全身状態を多角的に把握する力が求められます。感染管理の知識も求められます。ベッドサイドにおけるアセスメントや支援の要点と、臨床でリスク管理について学びます。

第2回

急性期医療でのコミュニケーション支援

8/14
(金)

人工呼吸器管理下や意識障害など、表出が極めて困難な患者様への支援を学びます。ベッドサイドでのわずかな残存機能の見極めから、代替手段(AAC)の選択、有声コミュニケーション等を解説します。特にカフ上送気コミュニケーションについて詳しくご紹介します。患者様の認知・身体状態に応じた根拠ある意思疎通支援の実際を学びます。

第3回

急性期医療での摂食支援

8/21
(金)

急性期医療でいかに安全に経口摂取を確立させるかを学びます。スクリーニング、評価・観察視点、食物形態を含めた環境設定、ステップアップの判断基準などを解説します。リスク管理を理解しつつ、対象者の能力を最大限に引き出す実践アプローチを学びます。

第4回

急性期医療での言語聴覚療法と多職種連携

8/28
(金)

急性期医療では、個別アプローチと共に医療チームとしての包括的マネジメントやケアが不可欠です。医師や看護師、他職種と情報共有や共通言語で理解することがまず大切です。その上で、言語聴覚士としての私たちの専門性をどうチームや対象者に提供していくかについて、事例を通じて学びます。

開催方法と時間

オンライン(Zoom)

19:00~20:15

参加費

1講座につき

当研究所会員 1,000円

非会員 3,000円

申込方法

右記のQRコードから
お申し込みください



*詳しくはホームページ <https://fc-science.or.jp> をご覧ください。



一般社団法人 食とコミュニケーション研究所